平成２３年１１月１日　№３６

総合学習センターだより

発行：相模原市立総合学習センター
〒252-0239 相模原市中央区中央３丁目 12 番 10 号
ＴＥＬ０４２（７５６）３４４３
ＦＡＸ０４２（７５８）８１４６
ﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞ http://www.sagamihara-kng.ed.jp

相模原市の教職員１２名が大船渡市の小・中学校で学校支援

本市と友好関係にある東日本大震災で甚大な被害を被った岩手県大船渡市への支援事業として、市内小中学校の教職員を大船渡市に派遣し、学校支援活動を行いました。

この支援活動は中学校から５名、小学校から７名の計１２名が参加し、８月下旬から１０月中旬の中で、１期５日間（月～金曜日）４期に分かれて行いました。

参加した教職員は、

「震災報道を見て、他人事ではないと思った。何かできることがあれば役に立ちたいと思っていた」「自分にできることがあるなら何かしたいと思っていた。そして、活動を通して、被災地のことを見て、感じてきたい。」

という強い気持ちで参加を希望したようです。中には東北出身や大船渡市出身の先生もいて、

「相模原に赴任し、まさかこんな形で大船渡に関わることができるとは思いもしませんでした。地元に貢献する機会を最大限に生かせる一週間にしたい。」

と、今回の派遣への意欲を語りました。

派遣校

綾里中学校、末崎中学校
末崎小学校、大船渡小学校

地域の方に見守られて体育館で運動会

活動内容

学校の要請に基づいて活動を行いました。

- 授業支援
- 行事の準備や運営の手伝い
- 環境整備
- 保健室での生徒の対応（養護教諭）
- 部活動の指導

支援物資の運搬

相模原のこと知ってる？

支援活動を通して感じたこと

「校内には自分たちが、がんばっていることを鼓舞するような言葉や掲示物が多く、皆で一つになり、力を合わせて乗り越えようとしていることが印象的でした。」

「生徒は明るくて元気いっぱいでしたが、『毎日海を見ると思い出してしまう』『友だちと話していて楽しいのに心から笑えない』といった思いを抱えていることを知り、心が痛みました。」

授業支援

避難所で使用していた家庭科室の大そうじ

「日常の業務の補助や、避難所となっていたときに使用していた教室を授業ができるように元通りにすることなどの活動を行いました。先生方がいつもよりも早く帰宅したり、ゆとりを持って子どもたちに向き合えたりできたのではないかと思います。教職員の皆さん自身が被災者であるということを、現地に行って認識しました。」

「テレビ越しに得る情報よりも、実際に自分が見聞きしてきた物事の方が何十倍も重みがあったと思う。実際に現場へ足を運び、一緒に作業をして、共に困難を乗り越えていくことの大切さを学ぶことができた。」

「被災地の経験談を数多く聞くことができました。その教訓をもとに、私たちの市の防災教育についても考えさせられました。」

など、支援活動をするなかでいろいろなことを感じたようです。

参加した先生方は、今回の派遣活動で見たこと、感じたことを、ご自身の学校で子どもたちや職員に伝え広めています。